

移動・人流・オープンデータに基づくグリーンイノベーションの解析およびコミュニティ実装実験

事業責任者: 経営学研究科 原泰史
協力組織: 一般社団法人リベルタ学舎

目的: グリーンイノベーションに関する地域に根ざした情報解析を行うため、移動情報データセットおよび政府・地方自治体のオープンデータを組み合わせることで定量的に解析する。また、並行して地域の一般社団法人と協力することで、得られた成果をコミュニティづくりへと反映させることも企図する。

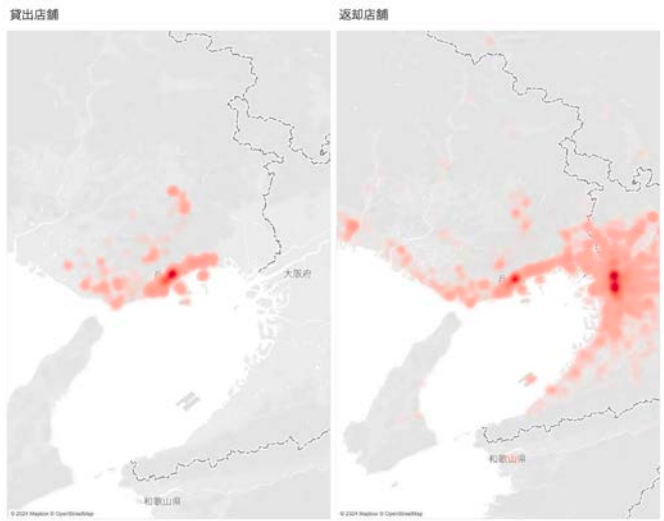
概要: グリーンイノベーションともよばれる、地球環境を考慮した革新的な取り組みに関する本邦での学術的研究は、ESG投資に着目するファイナンスの側面からの研究、あるいは、ゼロカーボンあるいはカーボンフリーなどに着目する起業活動を注視する研究が主である。本事業では、企業が提供する移動データに基づく人々の移動情報を用いることで、人々のどのような行動がCO2排出に繋がっているかの具体的な事例に基づく定量的な把握を行う。

本年度は、移動データの解析を中心に実施した。民間企業が提供する貸しバッテリーサービスのデータを活用することで、神戸市でどのように人々が移動を行っているのか解析を実施した。貸しバッテリーの多くは、コンビニエンスストア、病院、スーパーマーケットなどに配置されている(図1参照)。また、当該データでは人々がどの場所で貸しバッテリーを入手し、どこで返却しているかを把握することが出来る。データからは、郊外に住んでいる市民がスマートフォンやデジタルデバイスの充電が足りなくなる午後以降に貸しバッテリーの貸出を行い、返却を自宅の近隣にある返却スポットに行く様子が把握できる(図2参照)。

図1: 神戸市近隣の貸しバッテリー設置箇所



図2. 貸出店舗と返却店舗の情報



事業の成果および今後の展望:
データの解析からは、「郊外に住むひとびとが労働あるいは修学のために都市部に移動し、経済活動を行い、再び郊外に移動する」市民の行動パターンが明らかになっている。神戸市において、こうした行動は神戸市西区、具体的には西神・山手線沿線に住む人々において多く観察されると推察される。今後協力組織との協業のもと、Workshop などを実施する予定である。